

令和6年 5月 1日

長野県知事 様

令和6年度長野県産業廃棄物3R実践計画書

下記のとおり、産業廃棄物3R実践計画書を提出します。

協定期間	令和6年度から 令和7年度	
会社名	藤森土木建設株式会社	
住所	〒392-0021 長野県 諏訪市 上川 2-2190-1	
代表者名	藤森 勇希	
業種	製造業 ・ 建設業	
処理施設 所在地 (処理施設を有する場合)	施設名	所在地
担当部署	土木部	
担当者名	長谷川 哲也	
連絡先	TEL	0266-52-1766
	FAX	0266-53-4846
	電子メールアドレス	t-hasegawa@fujicon.biz
ホームページアドレス	http://www.fujimori-construction.co.jp/	

1 産業廃棄物3R実践方針

産業廃棄物の発生量抑制を推進すると共に、リサイクル促進に重点を置き取り組み分別による発生量の削減を図る。

発生量は、受注工事の内容により年度毎に違うので全体数量の抑制よりも全体リサイクル率の向上について推進する。

具体的には、コンクリート塊 アスファルト塊については、リサイクル率を100%目標とする。木材については、立木伐採木はチップ再利用 その他の木材は、破碎し燃料とし利用する。混合廃棄物の発生量を減少させる。

2 排出抑制、リサイクルのための目標値及び過年度実績値

	R6年度目標値	R5年度実績値	R4年度実績値	R3年度実績値
総排出量の推移 (t・kg・m ³)	4000.0t	2698.55	4173.64 t	4270.59 t
リサイクル量の推移 (t・kg・m ³)	4000.0t	2698.55	4173.64 t	4270.59 t

売上高の推移 (円)	175,000 万円	173,900 万円	166,000 万円	147,300 万円
---------------	------------	------------	------------	------------

3 排出抑制、リサイクルのための取組内容

現場使用材料については、再生材使用率の高い製品を優先的に使用する。

社内での処理状況を把握し、情報共有により意識の向上に努める。

コンクリート アスファルトに関しては、100%再利用の中間処理業者に委託する

現場開始前の施工検討時に分別の徹底とリサイクル率の向上に努める様指導をする。外部講習への参加による知識 情報は社内で報告し共有を図る。

社内パトロール等でも各現場に応じた分別減量指導をする。

各現場からの発生品処理に関しては、現場毎各 1 回 現場所長が処理施設に処理状況を確認し写真撮影を行う。産業廃棄物 3R 実践講習会への参加 参加者による社内報告の実施。

諏訪湖アダプトプログラムへの最低 1 回以上の社員全員参加とし年 3 回活動した。

計画段階では、二次製品の推進を行い現場での型枠作業による木材の廃材を抑制する。現場での使用材料の余剰は、廃棄物の発生を伴うので、過剰な注文を避けて施工を行う。施工開始前に、手持ちの資材を確認し使用時期を考慮した材料の発注計画を立てる。金属類のリサイクルをやすくする為に 本社に金属箱を設置し現場からの帰社時に入れられるように常設にした。現場での仮置きが減少し整理整頓が行い易い。

処理を委託した業者が不適切な処理をした事が判明した場合は、処理施設への持ち込みを直ちに停止し、状況把握に努め、関係機関との連絡を密に取りながら、原因の究明についての協力体制をとる。

他の不適切な処理に対しても、注意を払い不適切な現場を発見した場合は関係機関へ情報提供を行う。

以下の観点も参考としていただいで構いません。(必要に応じ写真等を添付してください。)

- ・産業廃棄物処理責任者等
- ・産業廃棄物の種類、排出量、処理量、処理の方法等に関する情報公開
- ・産業廃棄物処理施設の地域への公開、説明(処理施設を有する場合)
- ・処理を委託する処理業者(施設)の現地確認計画
- ・従業員教育(研修)計画
- ・リサイクル促進に向けた取組(計画段階、実施段階での工夫など)
- ・処理委託した廃棄物について、不法投棄・不適正処理が生じた場合の排出事業者責任の徹底
- ・不適正処理を発見した場合の協力体制
- ・自社処理廃棄物の管理方法(自社処理を行っている場合)
- ・独自に取り組む事項

代替素材への転換(化石燃料由来プラスチック製品等からバイオマスプラスチックなど環境負荷の低い素材や製品へ転換していくこと)、環境認証制度等の取得(環境 ISO 14001、エコアクション 21 等)、電子マニフェスト(公益財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター)の導入等。

4 リサイクル製品使用率目標値

※リサイクル製品使用率＝リサイクル製品(材料)使用量／全体材料使用量(%)

製品(材料)種 別	当年度目標値	過年度実績値		
	R6年度 目標値	R5年度 実績値	R4年度 実績値	R3年度 実績値

コンクリート二次 製品	25%	10%	10%	0%
アスファルト	90%	90%	85%	85%
砕石	90%	90%	90%	90%
コンクリート、コ ンクリート及び鉄 からなる建設資材	10%	10%	10%	10%
全 体	50.0%	45.1%	44.2%	43.75%